

くろくろくろ あっぱ

いじめによる自殺で娘を亡くした後、2003年に教員研修などを行うNPO法人「ジェントルハートプロジェクト」(川崎市川崎区)を設立した。理事として14年間で1600回を超える講演や研修を行い、遺族の思いや早期対応の必要性を訴え続けている。

教員研修で必ず伝えることがある。「いじめの報道は後を絶たない。新聞記事の中で『いじめ』と書かれている部分を『虐待』と読み替えてみて。すると、記事はこう変わる。

「子供は同級生から継続的に悪口などの『虐待』を受けていたが、学校は指導しなかった。市教委は『虐待』は軽微だったと主張した」

いじめは人としての尊厳や生きる気力を奪い、心と体を

「ジェントルハートプロジェクト」理事 小森 美登里 さん 60

いじめ根絶へ教員研修

深く傷つける。その重大さを実感してもらうための手法だ。

長女の香澄さんは1998年7月25日、制服のネクタイを自宅トイレのドアノブにかけて自殺を図り、2日後に亡くなった。15歳だった。香澄さんは同年春、吹奏楽

の名門・県立野庭高(横浜市港南区、現在の横浜南陵高)に入学した。部活でトロンボ

ーンを習い始め、家でも楽しそうな笑顔を見せていたが、5月以降、学校を休みがちになった。後にいじめの責任を問う民事訴訟で、横浜地裁が出した判決によると、香澄さ

んは5〜7月、同じ部活の女子生徒1人から「顔が醜い」などと言われ続けていた。

当時、母親として「いじめを乗り越えたら、良い先輩になれる。応援しているよ」と声をかけたことがあった。「あのとき娘をさらに追いつめてしまった。良い母親でなかったという思いは今でもあり、同じ後悔をさせたくないという思いが、活動の原動力になっている」と明かす。

そのときは、誤解を恐れずに伝えたいことがある。「加害者にこそ寄り添い、対応してほしい」。遺族の言葉としては意外かもしれないが、講演活動の感想文を通じて、いじめをする子供にも、追いつめられた事情があることが分かったからだ。「いじめから自分を守るため、いじめた」という告白もあった。

「被害者にとって、最大の願いはいじめが止まること。そのためには現場の教諭が加害者の悩みを聞き出し、苦しみ寄り添った上で指導する必要がある」と強調する。今でもふとした瞬間、香澄さんのことを思い出す。「会いたい」と人前で涙がこぼれることもある。亡くなって19年。「胸の痛みが消えることはない。でも、いじめをなくす大切さを伝えれば、救われる命があると信じている」。

これからも、一人でも多くの人に話を聞いてほしいと願う。(戸田貴也)



教員研修の講師として、香澄さんの写真を掲げながら話す小森さん(4月12日、鎌倉市で)